

威儀御膳

れ、それより千本の櫻、花園櫻田ぬたの山、かくれがの松など御覽有略○下

〔新儀式四時〕奉賀天皇御算事略○中

中宮職立御厨子於殿西第三間略○註 殿西壁下立棚厨子四基、設威儀御膳略○中

天皇奉賀上皇御算事略○中

其儀、母屋東第三間立太上皇大床子三脚略○中 東廂當母屋二間、曲折立棚厨子四基、置威儀御膳也、

略○中 獻物之間、供上皇御膳、辨備御臺盤二基、安置御前也、參議一人陪膳、殿上四位五位供膳兼院殿

之、延喜六年供銀御臺四基并高坏物矣、又獻物之前供之、○中略

天皇賀太后御算事略○中

大后御座之間、孫廂鋪地敷二枚、其上敷四幅帛、備舞蹈所、南軒廊四間板敷上、立棚厨子四基、供威儀

御膳菓子干物各卅種

〔厨事類記〕威儀御膳

御厨子二脚三階高四尺、長五尺、弘一尺五寸、或高三尺九寸、或四尺九寸云々

或蒔繪、或黒漆、或紫檀地螺鈿、后宮御産之時、用榎本螺鈿、可依時儀、但近代塗胡粉雲母、畫松鶴、

花盤六十口徑六寸、或五寸五分、花足高八分、厚三分、平盤十五枚、物、枚數四坏居之、已上塗胡粉雲母、畫松鶴、

〔空穂物語 吹上之上〕吹上の宮につきたまへれば、西のちんをひらきていらせ給、日さるのときは

かりにおはしまして、めでたくみがきしつらへる所に、みなつきなみ給ぬ、いとなきところな

りけり、いかでかくてすむらんと御らんず、いぎのおものはさらにもいはず、かந்தちめみこた

ちちんしたんのつゐがさねして、海山のものつくしてまいり、六位のゑふ諸大夫しなく、にい

かめしくてあるじしたり、

〔倭訓栞前編三十〕みけ 節會に、晴御膳といふは、酢鹽、酒、醬、餛飩、素餅、餛飩、桂心也、殘御膳といふは、

晴御膳
威御膳